

# 市民の平和への思いを

## 国立市に続く市長賛成意見書へ

箕面平和のまち条例をつくる会 恩地庸之

法定数2.3倍の署名提出

二〇〇七年一月四日、4735筆の署名を箕面市選管に届けることができました。率直に言うて、法定数の2.3倍というのは、当初からは思いもよらない数字です。多くの支援をいただき、改めて御礼と感謝を申し上げます。

月一回の学習会と呼びかけ

私たちが正式に会を立ち上げたのは昨年五月で、署名活動の開始は昨年一月二四日でした。もう少し時間があればという思いをするのは一度ならずありました。当初は、とにかく講演・学習会を重ねていこうというこ

その中では「箕面では、こんな運動は市民から浮き上がって、逆効果にならないか」といった主旨の反論、危惧が出されることもありました。

市民の平和への思いとネットワークが署名での地域の財産

署名集めは、前半の二週間は一日三〇筆からよくて九〇筆前後という状況で、会内には悲観論もありましたが、後半から、文字どおりウナギのぼりの状況を呈しました。これは多くの支援をいただいたことがまず第一です。そして、市内の障害者事業団体・平和グループ等々多くの団体・個人、また前述の若干の異論を提起していた団体の方々も、むしろ率先して街頭に受任者活動にと奔走してくれ、そうした皆さんの平和・反戦への強い思いがもたらした成果だと実感しています。

街頭での署名は概ね66%、受任者によるものは34%でし

た。街頭署名は、中高年の女性の多いが目立ちます。若い層の無関心の問題は、私たちのすでに古くて新しい、重くて必要不可欠な課題だと痛感します。一方、受任者の方々の活動を通じて痛感したのは、「ネットワーク」の存在です。いくつかの文字どおり網の目のような連帯・連携関係が、この署名集めに当たって駆使され、絶大な実績、効果が示されたと感じます。これは地域の素晴らしい財産だと思います。この経験だけでも、今回の取り組みの意義があったのではないかと思っています。

国立市に続く市長賛成意見書

これからは議会、市長に対する取り組みです。市長は「住基ネット」で住民の立場に立つ姿勢を明示しました。その姿勢と勢いで、この条例制定についても毅然とした態度を示してもらおうよう働きかけていきたいと考えています。

(4ページから続く)  
会派の共産党が、この条例案に対して全面否定の対応で、市民の請求から逃げる市長を側面援護する結果となりました。本会議では、保守系議員は誰も反対討論すらしませんでした。

議会後、傍聴したメンバーで相談しました。議会は数日と短すぎ、議員は勉強不足。でもこうして直接請求したから、市民も議員も市長も、初めて知ってそれなりに考えた。だからこれからが平和な地域をつくる運動の本当のスタートじゃないかと。でもこの結果を、署名してくれた人に返していくために、しっかりとわかりやすい報告をぜひ作ってほしいと要望ができました。  
この議会報告から、新たなスタートを始めます。



無防備地域マーク